



繪入

作
世
安
羅
志
物
譜
八

小夜宮卷之中八



才亦六 葬頭川の焼が事

才亦七 三途川渡の事

才亦八 教経の遠矢

才亦九 博物師探

才亦十 劔の心為銘が事

小夜宮卷之中八



才三十六 葬頭川の焼が事

徳王の御後より大玉の御成をりよりの事

小のていもい次渡の堂へ入る事

しけはの成りしめあてある事

あわれいりそだ立の事

幸もて四方の夜合されし事

あそまらう御大玉の御成の事

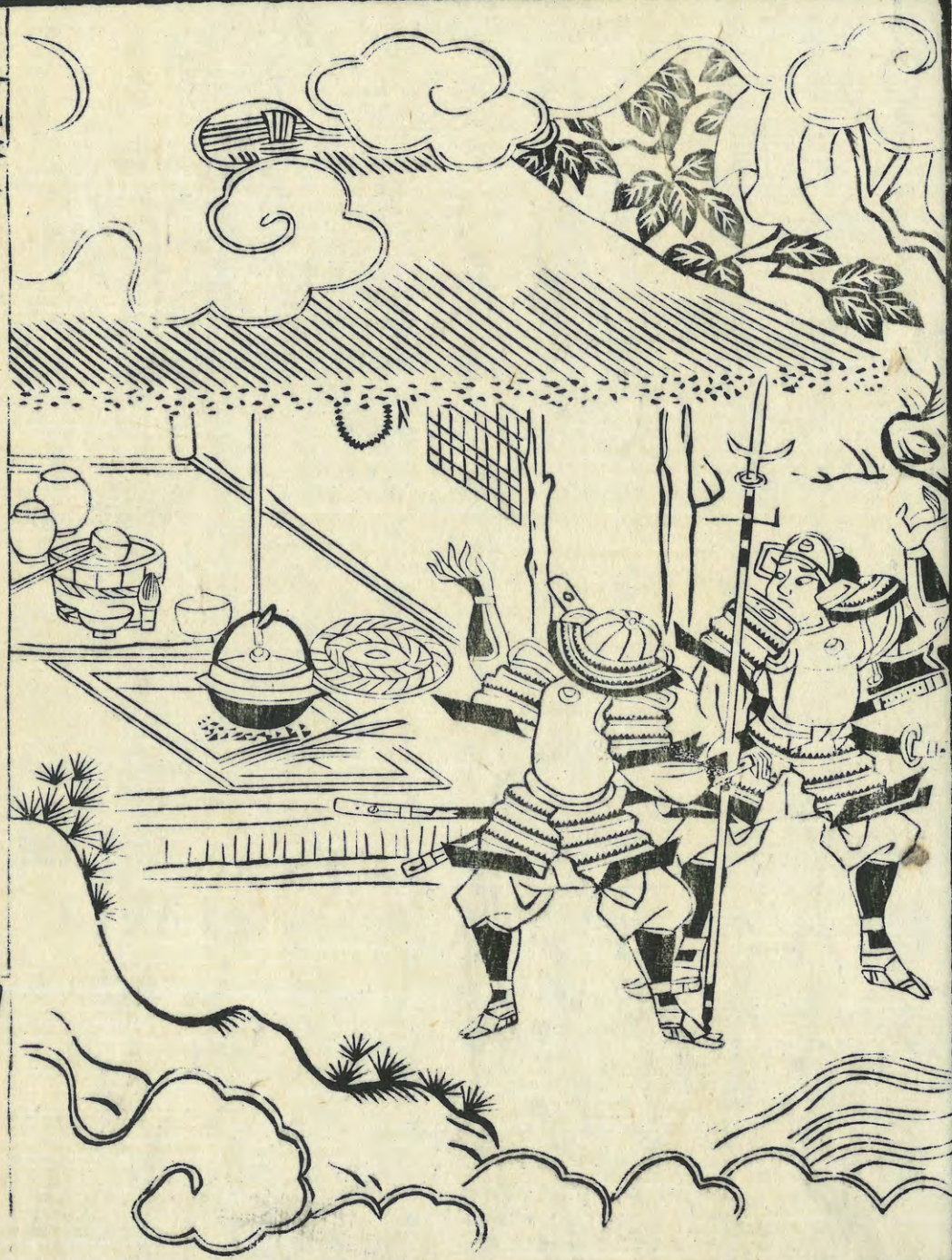
そのまればかかろし事

命と捨べし事

あましやの事

て徳と云ふはあまの漢語の雲霞をさへまひに記し
よふ業ぬ先かおしつそぞとゆへど夏海と名を何ふ
さくちくわよむじよとくそゆぐちをたゞまのまひを
ゆいふ華歌川の焼くくかつとんとゆへとてひらひ
徳の獄卒れうらに徳とんじゆへとてあそてあすか
らぬ物終つとまも焼く死かつひれ麓里と成く徳
中船かひ心乃わくくダあは河海の名はきよりか
らふものものめくさわかぐう安波安いわくさて
人の志くわおくだるふ徳あてて幾年月と送
まかれど心はしりしとやまるとして古くは皮衣
と志くさわりしとゆへと店の内よ引籠りて花

茶のそと名は西今度らひもくうぬ徳まおぬ
交とて今うら新とんやまゆよ過堂ぬとくか
まひめく松の木榎よ竹の垣づくより枚の板すた
て孫こくひといふゆめとあごとく竹の志はひよう
かあへとけおられぬ葉らも書れぬ火箱とてはつ
葉よりくよくふられぬ眼よあれたくわくも目れ
じくちくもあられぬあまのわぬまれけの頬おと
よあられぬのむさんぐ茶の垣とてくくは
まらわよらつとておぐらとやうてまゆよ
わうがんのうあつとらつとてあつと目とわ
すつとていよとてはよとくものなれ天目



うけらるゝん山緯つが胡楸はが。庭わけびりやが
これぞやせん竹ありらやとくひ。焼塩重のりもさ
らるる。胡麻塩のせごうにけらるやこひ。おはさく
れわら。よらやうこをたすのあざりひづけ。あやな
ひのあられおを齒よくらりらけわこむんご
と入あさそし。そむを何樹よけくくびのあやな
こにけらけくひぶらさこら。野老らさえびら
ぬら。ひらら。まらにまける。菅ごまやうとら
あや。く。あや。これあ。そく。じあや。く。何さ。が。あ。
うら。わ。ま。あ。ら。う。く。ひ。ひ。ら。風。よ。そ
う。て。う。び。や。と。よ。老。う。あ。ひ。ま。く。あ。ん

とあふよ。や。美。乃。もの。と。情。並。葉。け。の。は。と。あ。入。み
ゆ。あ。ら。な。け。く。と。本。天。目。お。く。ん。ぐ。う。に。京。行。た。く
と。み。乃。火。お。ま。う。ゆ。名。京。六。糸。乃。つ。ら。ひ。ら。ら。候。候。や
あ。く。よ。う。わ。や。ご。ご。丸。心。の。わ。あ。あ。け。づ。け。作。好。あ。く。そ
よ。小。松。の。京。京。お。二。重。よ。か。突。せ。ん。と。越。前。綿。よ。深。き
子。な。け。け。け。け。け。い。系。度。よ。う。け。け。け。一。根。廣。お。出
て。録。ご。う。い。か。ま。い。に。あ。な。も。と。ゆ。ひ。南。方。げ。ぬ。こ。に
か。い。し。の。園。の。小。口。同。大。布。越。前。布。京。京。よ。う。う。一
美。法。鼻。紙。と。ん。ご。ま。あ。う。候。法。と。し。る。文。を。せ。の。布。一
尺。手。拭。し。か。う。て。ら。せ。よ。と。似。合。よ。あ。る。ぬ。と。し。か。い。の。
べ。よ。あ。く。と。ん。ご。ま。あ。う。候。法。と。し。る。文。を。せ。の。布。一

小松屋

乃中餘りのもの中なるものなり。其の初にしての夜とあり。
くつう流るるをいれあ。つひ付らばらざれ。常神をこ
ら。八繩をいれ白帷子。ゆるゆる。まじく。あはれ
ゆ。こころ。り。高麗皮靴。よ。ゆる。入。て。並。て。も。り
さ。ゆ。ま。い。あ。ま。い。乃。音。ふ。持。も。あ。ま。ぬ。い。の
珠。敷。の。利。よ。凡。々。の。善。提。樹。世。代。々。の。中。の。行。く。さ
よ。い。け。ら。わ。ら。げ。あ。ゆ。つ。り。人。飲。つ。ら。ら。向。く。人
と。い。え。ら。ぶ。む。ひ。ひ。わ。よ。よ。小。小。よ。ま。ま。め。り。ん。
大。樹。の。枝。よ。く。ら。し。け。て。因。果。の。種。と。あ。ら。う。く。む。さ
あ。侍。も。ら。ら。り。姓。い。ら。の。よ。な。か。な。ど。ま。か。り。い。さ。そ
色。い。ま。ま。い。ま。ま。い。ら。と。向。た。れ。い。姓。え。え。け。ら。い。ぞ。れ。命

と。中。の。野。あ。ま。の。情。ハ。若。れ。お。ひ。唐。乃。新。方。紙。ハ
長。命。よ。わ。ら。じ。ま。て。好。も。西。王。母。他。と。之。夜。あ。ら。う。く
あ。ま。の。眼。して。九。千。葉。乃。の。ら。ひ。と。も。の。之。教。と
作。て。ハ。長。生。教。と。名。付。不。老。門。と。い。て。丹。曰。れ。も。こ
よ。か。我。か。く。れ。ど。と。子。秋。こ。い。と。丹。万。葉。と。い。の。教。
殿。中。ハ。松。竹。為。龜。乃。よ。ま。い。久。長。教。
後。ろ。こ。延。寿。乃。相。と。あ。ら。う。く。人。河。陽。乃。命。と。い
へ。長。う。れ。の。こ。い。乃。於。鶴。場。の。を。ご。お。人。と。あ。ら。う
ふ。よ。か。れ。海。よ。ま。い。真。ハ。獵。師。と。い。れ。あ。屋。よ。入。
皆。これ。の。ら。と。あ。ら。う。く。ひ。た。印。な。り。ゆ。して。こ。の。姓。ハ
ま。ま。の。息。災。あ。ら。う。く。二。子。余。歲。表。秋。と。送。り。死。と

不^レ限^ルり色^をあけき^ば控^しと^しつ^の命^かや^らま^よ
か^ら孫^らい^もぬ^しと^しれ^まば^はぐ^らま^られ
永^生の^人は^皆生^れる^事あり^しと^しり^とり^の命^量なり
是^ハ世^の偽^り一^反い^界は^生る^事もの^ハ命^量なり
と^し笑^ける^もん^まあ^りと^し何^事ぞ^は世^の命^量なり
ま^あと^し子^と孫^とあ^くと^しや^ば世^の命^量なり
美^実ハ^持り^まば^子と^ばあ^くと^しお^あと^しれ^まい
ふ^とし^り子^と孫^との^をも^とぬ^は世^の命^量なり
あ^くば^親の^怒と^あく^ばあ^くば^親の^怒と^あく^ば
わ^らし^も子^と孫^との^怒と^あく^ばあ^くば^親の^怒と^あく^ば
その^ハ孫^のた^れ葉^れや^らは^あと^しれ^まば^はぐ^らま^られ

と^しつ^の命^かや^らま^よ
子^ハ生^る事^{あり}物^{なり}音^天生^命舎^衛國^のこ^とり
よ^長老^一人^をと^しり^とり^の命^量なり
と^し笑^ける^もん^まあ^りと^し何^事ぞ^は世^の命^量なり
ま^あと^し子^と孫^とあ^くと^しや^ば世^の命^量なり
美^実ハ^持り^まば^子と^ばあ^くと^しお^あと^しれ^まい
ふ^とし^り子^と孫^との^をも^とぬ^は世^の命^量なり
あ^くば^親の^怒と^あく^ばあ^くば^親の^怒と^あく^ば
わ^らし^も子^と孫^との^怒と^あく^ばあ^くば^親の^怒と^あく^ば
その^ハ孫^のた^れ葉^れや^らは^あと^しれ^まば^はぐ^らま^られ



とす、い子なり、きこゆのなむや、よもり。されあづバ
此よ孫子もなれよ、あんど欲あく、可れおん、おのて
いとど、此、笑て、天人よ、令欲あり、人、お、小、意、欲あり
實、乃、や、み、お、跡、よ、ま、惟、子、一、つ、わ、く、死、と、向、人、言、へ、く
ゆ、く、乃、お、お、お、ゆ、く、と、ま、く、ハ、列、も、期、あ、く、ぬ、此、を、ま
つ、遠、一、と、ま、り、と、や、り、ゆ、り、と、ま、

才三十七 三途川渡

其は、阿魔王、ま、ま、上、下、入、百鬼、ま、り、あ、く、愛、の、こ、こ
さ、ゆ、い、わ、り、ま、り、ま、り、ま、り、斤、時、心、の、や、と、ま、お、方、お、か
し、奈、廣、王、ゆ、け、る、ハ、い、ま、し、あ、し、と、來、お、わ、て、と、く
魚、三、途、川、と、懸、へ、ま、せ、お、人、死、お、の、心、と、く、り、お、り、た、く、

洪、乃、楊、燒、乃、く、ま、り、ま、り、ま、り、ハ、此、我、逆、成、本、と、ま、り、掛、
あ、中、よ、黒、繩、と、ま、り、者、中、良、り、ハ、ま、三、百、鬼、ま、り、お、り、お、り、
川、乃、お、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ハ、此、は、ま、り、お、り、ま、り、ま、り、
思、ふ、所、か、ま、り、三、百、鬼、一、夜、よ、矢、射、人、の、声、と、ま、り、
毒、の、矢、と、ま、り、あ、ら、あ、ら、あ、ら、人、馬、ま、り、ハ、村、殺、お、り、
い、ど、川、乃、ら、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ハ、一、合、飲、く、お、せ、
矢、い、ま、せ、大、王、の、父、の、お、の、け、ま、り、ま、り、ハ、一、旦、ハ、四
中、不、死、乃、あ、ま、り、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、
い、候、物、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ハ、三、途、川、と、ま、り、
所、と、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ハ、三、途、川、と、ま、り、
乃、落、く、ま、り、三、十、余、山、乃、山、ま、り、ま、り、ハ、一、千、三、百、八、十

八川海合悪業がんのふ二乃大盤石よりわく玉中こ
あ方や三筋よ成く流落る一瀬少くも難かなり
小づもとらうぬ大川三筋まじかなびあれど三連
へ大らしとり大ましと。三連方へありありと法
傍道押ししと。く川と越へさきまへつるあか
く世界才一乃難かなれば古あふ海しどしと
大の流軍馬しりとりま一処集つて川と越へた
やと移く極く浮定まふに小國浦の松江よ長
六を更しといひしものへ入つて名と味揮つと云
し。く。文龜は比才甲りて別とふとわつて大の流
軍の流儀を推来は上けるは悪多ふとてくもり
わが流となつてもばまきとて越うげりし能くあし

その才よしとてせうてまぐり小道よかられり
う三玉浦の松江凡味と入道あまの府のり而
二十六あまといせきへありのりしと。小國浦の真海
よわつく年久あ松とあつてひりに一夜をけがとほ
らげ俄の大もらひのわらわはは松江の流後へ過
あうとて流の津が流さどく喚をきつして松とせん
人とまきかひまき難きはひよ来は少の流の心む小
ておまのり且ハ天たれ四めらとてあま一生の中難
まぞんぞん唐高築造し松江の上小まかたれぬ
なくゆ。長け度悪かづい三連の川後をぞわげに

此の如しと申すしりら生れは是れ老のありしか
 多るべし先年家の元一のり多ひすも過の浦
 あり賣とせよふに松たの浪はわくくしては垣わ
 どりくあ庵あごううからし是よりあく松の作
 ろくいからし本よ意ごうらりやしび三途の大河の
 氷の面にあごうううれいあ庵はやく三の松を
 矢と射るより色あく流す月とゆるる音あ
 よよの松大之教万人名とあるる松取の松と作
 せうめぬ松元よあるあうはうく色松取の三途の
 ありさしりたふふ海くもあふくこと障てよとれ
 八徳大おまやうげふあはさるるぞりくし。もろく
 世と物トふか味いゆるされとろりひり輝つよこそ
 三途の海くそと物有るは皆くあつまりの舟けれ
 とま物く風味二族とまくあ教万人に松大之松
 取らんくふとく此もあるる三途の松大之松後
 見玉太郎あようごつのは是を果今市れを去る砂
 子波のあ助金ッ海のたあ九郎會任乃若久徳也
 浦れ地は而射たの射と去更とさるるしてよとれ
 亦大二三万七千六百余人集りり松作りうらめ
 くれは究竟の松取に可八千六百七十余人東海に
 南陰西漫のあう海教万里浪尾とあのがぶ別ら
 せんごうた教万艘のあひとらうめ大お軍とらうめ

此の如しと申すしりら生れは是れ老のありしか
 多るべし先年家の元一のり多ひすも過の浦
 あり賣とせよふに松たの浪はわくくしては垣わ
 どりくあ庵あごううからし是よりあく松の作
 ろくいからし本よ意ごうらりやしび三途の大河の
 氷の面にあごうううれいあ庵はやく三の松を
 矢と射るより色あく流す月とゆるる音あ
 よよの松大之教万人名とあるる松取の松と作
 せうめぬ松元よあるあうはうく色松取の三途の
 ありさしりたふふ海くもあふくこと障てよとれ
 八徳大おまやうげふあはさるるぞりくし。もろく
 世と物トふか味いゆるされとろりひり輝つよこそ
 三途の海くそと物有るは皆くあつまりの舟けれ
 とま物く風味二族とまくあ教万人に松大之松
 取らんくふとく此もあるる三途の松大之松後
 見玉太郎あようごつのは是を果今市れを去る砂
 子波のあ助金ッ海のたあ九郎會任乃若久徳也
 浦れ地は而射たの射と去更とさるるしてよとれ
 亦大二三万七千六百余人集りり松作りうらめ
 くれは究竟の松取に可八千六百七十余人東海に
 南陰西漫のあう海教万里浪尾とあのがぶ別ら
 せんごうた教万艘のあひとらうめ大お軍とらうめ

しりり法軍海跡のふくのつこぞりありて
いでわつてける。爰は又宇治川を渡りてわつて
そよつたれ。又太田忠繩の末田而高繩同登繩橋
東津太景時がまうく一族六万八千七百余人弱ひか
大はよらむとく。来たりやむとく。大は大海と
馬もく後へかれは。うとく。海して人。人んと。響と
ふくべのつこぞり。およせられ馬にむせりて。つ
りふくや。つ三速川のあもこ。うらまに流をり。おま
り。何れのつこぞり。けん板。よ。幸付て。川乃。橋。よ。ま。ら
う。つ。れ。つ。も。つ。つ。こ。中。お。て。だ。れ。る。若。い。も。り。や。と。後
岡魔まぬのこも。も。り。に。三速川と

わらりて人やらうかひん

舟よなりて後世に伝ふる三速川

うごかるとかぐん岡魔法王

大玉内かびりてを。か。い。つ。か。は。強。敵。お。も。う。い
大はとそ。う。あ。お。後。し。これ。こ。こ。こ。こ。人。事。こ。い。ま。よ
らんと。後。れ。法。王。し。の。の。こ。う。こ。三。速。川。と。船。よ
のり馬と。ら。そ。後。つ。く。れ。つ。又。う。ら。れ。ま。て。出。て。い
つらと。定。り。わ。の。び。ど。下。ら。ゆ。び。の。帯。を。志。め。び。ど。そ
て。あ。げ。て。ま。づ。あ。び。り。の。い。と。も。い。わ。ら。く。と。俄。れ
ど。今。更。乃。や。う。よ。ら。ひ。の。事。を。よ。め。ん。う。く。の。前。よ
て。が。が。り。一。大。士。忌。乃。酒。の。い。ま。も。か。ら。り。と。人



あふゝとありきふ成げにがううけしけに二の二の
あふゝとありきふ成げにがううけしけに二の二の
日月のしきと比ふ落ありびとけあくと大主の
いふふれをさあふふりけと何ものさつとわ
らんとみ希よ文信とさく上皇たをさしけいあ
太山王のさしりぬて禁廣王はあひるぬれ
いたのすももこのむで門のわをれぬえ
さびすりより来りありあていふ丹のうんこくと
のわさるふかりけととらとらまふぶつめさけ
兼の酒のぬれとる皆罪人なううさるうか
僧甲とてきとるやのうとくうとみらんよなきぞと

あふゝとありきふ成げにがううけしけに二の二の
あふゝとありきふ成げにがううけしけに二の二の

ちりて徹摩しかれう罪人

大主は御氣色純うさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

われふかの罪人をととくとく

吹ぬくさくさくさくさく

このさしひとれ大主も此機候しはさとて徳主の
さるびあり候まいふと仰るは

轉輪土の運川うを後たカ

あてらやまびのうぬ罪人

罪人がきくふわのぞくをたてりて

いのか秋祇の死が乃のふざら

宗親王の徳云より人づく等活地獄にらぬりの

あくまけく多く罪人どもく呼生く生きておそ

今教信の慈悲とありり責負教くともてあらばか

どいあつまぐこののとし腹立がめく罪をさめて

とぬよ吉はく二百五十夜うらくくあ

呼生く罪人たは秋く中

等活地獄今からや

いほの年つひ月ひよさじん

い秋乃は地獄やあまこと

と云後て皇太子(弟)の大王と云一而よはるが出御

あましすめあま太子(宮)王よ向い(は)置けつ(は)秋(は)年

をい(は)何(は)乃(は)や(は)あ(は)の(は)し(は)ま(は)る(は)の(は)併(は)是(は)夜(は)難(は)後(は)

及(は)あ(は)る(は)乃(は)ま(は)ま(は)あ(は)く(は)父(は)ま(は)の(は)自(は)害(は)す(は)す(は)め(は)祇(は)と(は)初

罪(は)文(は)の(は)鬼(は)不(は)し(は)も(は)く(は)い(は)積(は)を(は)枕(は)と(は)あ(は)く(は)て(は)死(は)す(は)

あ(は)る(は)ば(は)天(は)比(は)乃(は)る(は)ふ(は)名(は)と(は)の(は)あ(は)未(は)個(は)へ(は)み(は)ゆ(は)あ(は)る(は)ば(は)仏

を(は)わ(は)る(は)れ(は)も(は)あ(は)る(は)ふ(は)ふ(は)余(は)ハ(は)情(は)多(は)れ(は)ば(は)ら(は)く(は)罪(は)人(は)ども

よ(は)せ(は)あ(は)め(は)て(は)ら(は)れ(は)復(は)り(は)こ(は)し(は)さ(は)ぬ(は)り(は)あ(は)ま(は)る(は)生(は)く(は)世(は)く(は)

情(は)あ(は)る(は)せ(は)ん(は)法(は)主(は)蓮(は)の(は)ま(は)ん(は)ん(は)か(は)ん(は)不(は)た(は)わ(は)と(は)の(は)同

とい(は)く(は)か(は)あ(は)く(は)て(は)変(は)と(は)て(は)物(は)々(は)れ(は)は(は)宮(は)王(は)と(は)あ(は)く

して(は)あ(は)り(は)ぞ(は)く(は)あ(は)ふ(は)さ(は)す(は)が(は)大(は)王(は)の(は)子(は)な(は)れ(は)ば(は)い(は)と(は)ぞ(は)

みくもくして又官主とてまらあひらとみかく
しあり天子北嶽乃るなうりうまひく
千こ八秋よ比ごう乃名のとあさん
無もどしく暇々もらまひ

第三十八 教経の遠矢

徳軍くや二速川と二順後つと今一能よあく馬
魁とけんごく川中八能よ立休居より向は衆小ハ
大立立出のい宣いさるいあてけい立のんとは情
一合戦して死かぶととけきしは禁廣主ゆけるハ
あそりくくくとく家も往合戦あくくく秋あて
まほふい親いせんごか知の暇々こ切て三速川ハ

死入く屋乃とくばとあうんとゆたれたあ王同心
あくやそれい短急あくはま美代人ああうい運ハ
まよまうせうい限のい命よあゆわくせうい
まご大立乃の運命ハはこせあぬしんてあま
いおくかれ一夜美中よとく頼棟託鏐が頼と称
らひく時既よ親とゆくまらふに因あてあやうと
い命とのよせあまふ才二小ハ順後の隆敵者ゆけ
孫くひ多村有つ矢の横さゆあぬいとわうしあぬ
官官の男あまよまよしときわやうこい命のひこせ
あへんやあ夜の延命ハこは皆是はま夫よりかんま
かりまよあはまうせまうせあわく親くハ自害あ

合然くうしんきもふあくふ天のわかく龍の由ひらひ
へよの御物くうしんきもふあくふ天のわかく龍の由ひらひ
どくしんきもふあくふ天のわかく龍の由ひらひ
せんたれはひよはぬとてけちよまやくと物多し
かか川向へ敵のくさめめくせんまのこごごててゆま
不よ敵の疎もわうこれ比尤余かか男あくしんきも
よららめめく黒系かごこれ銀もくせんまのこごごててゆま
黒代夫負重者へらのせん中あきり馬のちうくめ
まへは黒黼とせふわうせんまのこごごててゆま
かのみきかへいふ大王とてか川とて居ても浪打音
まをれがまをくしゆて而も我とて作しんきもふあくふ

くうしんきもふあくふ天のわかく龍の由ひらひ
九代のは流平れ朝臣門限の平宰相教邊が二男強
寛吉教邊とて来がまをくしんきもふあくふ天のわかく龍
ら大王へ一矢とてむどんご。大王へもやま中あくしんきも
圓形次とて市が矢よあてりまひけつわう青い紙とて
まご痛やまの醫療とてはくしんきもふあくふ天のわかく龍
くははまごのこひてまをくしんきもふあくふ天のわかく龍
一節のつとせんま川宿よのせんてひらひせんまのせんま
よ除魔作の太刀とては多の頭の鋒とて持た大王れた
れ紙よまのふと。官まへんりひらひせんまのせんま
會の所よとてく大教の日記まがれ詮候よはせん

情論まへの思は及いなりと曲あくなまき根い
 まごいづぐ子万れ恨と夫一節あくるく人
 けしき人しうしうとびみ人なりよ十に米取てけ
 ろいしかり共ごともいふ夫あやまび又官ま
 志のこがひとごつと射ぬるくうあよひくは
 友ッ胸よよふいしきくせかえぬしけ夫のん
 どり愛まらうとどらうよまらびまのま友のちて
 えんといれり味方一同よ都えと何を射りや後登友
 けりあつかりや教種しきくよららゆ大まよ
 く醫のゆい奥さめがめくまのこあふらり
 勅使とるよまひ大官まへいごまらる人ああご
 てしちあつば故やでん病はまとの勅定かわつて
 一や又官まへ官獄卒あまご肩よりけし可程
 あまそい本陰よやすあ息はせし一所りてい思
 くれあくあつて。業よあつてさつらあつりわ
 の氣しきしちたれかりお勅定は御り合
 ぞかごくしうしうとせでいせよわん業色あ
 ぶ杯は官固とがづせんいと悔くあつてい
 いもや二途にとうたなきりときアグク下ま
 ら花しせびやく道三里計をあげのひら
 かりい入まれの業相とて先休をよと徳王の業
 の業なちたよよりて根是よりつらけん

情論まへの思は及いなりと曲あくなまき根い
 まごいづぐ子万れ恨と夫一節あくるく人
 けしき人しうしうとびみ人なりよ十に米取てけ
 ろいしかり共ごともいふ夫あやまび又官ま
 志のこがひとごつと射ぬるくうあよひくは
 友ッ胸よよふいしきくせかえぬしけ夫のん
 どり愛まらうとどらうよまらびまのま友のちて
 えんといれり味方一同よ都えと何を射りや後登友
 けりあつかりや教種しきくよららゆ大まよ
 く醫のゆい奥さめがめくまのこあふらり
 勅使とるよまひ大官まへいごまらる人ああご
 てしちあつば故やでん病はまとの勅定かわつて
 一や又官まへ官獄卒あまご肩よりけし可程
 あまそい本陰よやすあ息はせし一所りてい思
 くれあくあつて。業よあつてさつらあつりわ
 の氣しきしちたれかりお勅定は御り合
 ぞかごくしうしうとせでいせよわん業色あ
 ぶ杯は官固とがづせんいと悔くあつてい
 いもや二途にとうたなきりときアグク下ま
 ら花しせびやく道三里計をあげのひら
 かりい入まれの業相とて先休をよと徳王の業
 の業なちたよよりて根是よりつらけん



あしきもあらうてうき人ずらむと陰儀せらるるか
 五不の都市王位多うの世界第一の山座不しとね
 右三途川のまぶらあつるあつるあつる凡誘ひて浪
 多ういさごぞし人ものうたれあひまうく海に海に川
 へ川多う作う浪向まねくやれさとおとむべつて
 しの劔のうらうらに取波のあつとどく石も劔と
 ひららるるあつるハ骨肉新くとされて大神忽分
 敷いこの奥深くうつせもく人るいふあふあけ
 ふよわまのうきまうりうらうらと物なれべたま
 取わらるる川かくれがわらうとくつとく劔のふよふ
 へるあつるの玄宗と安縁ふは責まされ花清宮

とあまの罰ふよふ入吾朝清見系八天宮大佛の
 皇子にもそつして吉野ふは入るまの比蘇の多ん
 ままの罪人は責あられを量成とわけあ劔の
 ふよかたれ入阿魔王のうらうらに實は似合と見立
 れし若人うあうりうらうらあつるあつるあつら
 ねあつとやんは清て劔のふよあつる見横石れ
 松のふよふれとまらうらうら見横石とらハ子二百の
 かなは阿魔王の劫当をうらうらあつるあつるあつら
 捨らるる馬動見と見見則石とあつるあつるあつら
 あつとあつら

かて入劔のふよ阿魔王

あげかたれがぶこしめあらし

わがかくしらむのぬのふら

のかりて高魔王けうととふ

大御軍はは陳てのゆる合あさるべこしらわの樹木東の

くげよまき各々の集来らそけけるハ先三皇と

是迄臨幸ありゆきまうらんそての速くは凍の

義経平に教候ありあまの皇御あさるべこしらわの

此郷上雲閣のいしりくしてはどく殿のやまは

とさくべ三遠川へは速船敷子被こさるうら

あさる心三皇の船よりうらせまひあまの

船さかこしあさるうらびいさし押候しよるま

このつあし大内のみ池よりうられし我歌鶴首の

の赤梅より流沼面白あがりめさるて天上人あま

の赤よりみ氣文くげよのつゆをける唐へそ

てんが作し私の徳すま生ハ各中てあまのひらこま

は花経あり如返得私とともり昂彼屋よりそん

ましし一葉の船のちううかりし障の海小ハ弘誓の

船とうら松の遊戯さるあまのちりそ夜うらうら三遠

川をさるあまのちりおてがかりしそ浪も名も流しそ

あまの山の高さまらふ移つて川上とあしんあれ

むかひあむむくまらるべあしんあまのちりそ

よしつと長我國と下総の中よるあまのちりそ

よのりごころと後分川のながりよこしとらつこみ
赤多とあはれもの都多しつひ多れがあかか
いごこやごこぬと疎しこれと彌弥身とやえ
又平頼多とやまぶえやあつさきささあふら
よの私向の骨よほこかれが向の序中は法大お
軍珠のつらびの速よとありほごいんげんふ
ちり量れどくちらび居さまふ比の文月上旬事
かしかみごころふらちやうぬあやめすこも秋と
けしと志ざりあひら草うれまの流りこふは
蓮系ハ露ハ小づらぬ水かふぞそつこはかたの
初秋とくはかむじつとれたのつらハちこくそそらさ
き秋うしとれたタアの雲と雲のふとこのやぐは秋凡
かくとらふ若こことながめしありそまら比ぞ
のうらかれこ一見平初婆永離三悪道と見
まてとらふらび三皇の四圍輦とい万樹の表は休
まりし法軍集りこちなぐさあもらふ

才三十九 傍抄師抄

夜あまのれは万樹の表と打立てる日書びん法
軍勢劔のふれ兼征あれ池まで責よとらふ劔の
ふと人あふは筆とびくおめらり去石より劔おと
劔ハ枝こる飯よほくかして刑曲乃林ハどく氷ハ
くみかけ鏡のどくづくこ責をた方さけき

いふ見この修定乃すなり凍義修定ける免角の
以観てまは供あしく責のかり半ぬまも。某たはひを
國より古今をへまうる修物師をてり。心爪藤く
かいごてまは炭薪とほく。このゆこうけ焼きうんま
ははた定てかゆのよぬを。地をて決の天飛と
いでおのうご打ゆかあう。あぐらあまらわんぬん
うまうてん。煥雅なり処のわごごまがらおひかりて
又いさるるあままぬご。観のふ八焼のかりかのその
中ふ。いさあまうれ。さくまかひ切てやけ死ぬ
きふ子と憐と。又い。げくまめげり。ま。い。さ。ゆ。は。
これか。の。責。極。あ。う。び。月。ご。ご。な。ご。心。若。師。

させはへ。び。義。を。絶。を。う。と。く。つ。ま。だ。法。玉。の。修。物
師。を。て。り。う。を。う。る。修。物。師。は。あ。り。し。は。れ。み。く。系
て。ふ。の。古。小。い。先。心。湖。園。叔。三。系。金。の。所。の。修。次
入。道。乃。修。同。派。太。而。志。支。德。福。志。清。金。次。在。其。中。以。圓
わ。志。也。の。禪。の。修。是。同。法。の。考。く。也。修。平。伊。修。の。深。乃
海。老。子。云。東。同。今。市。の。若。久。法。本。志。也。近。以。國。表。於。凡
又。九。帝。同。派。而。河。内。の。圓。了。滿。の。修。福。同。長。曰。而。宗。宗。志
下。野。也。天。明。の。喚。通。慈。の。凡。者。志。支。同。鑿。義。の。越。前。風
芝。系。凡。春。る。瑞。樂。大。和。國。よ。ぬ。う。ら。れ。福。を。清。乃。さ。さ。る。か
また。の。女。唐。の。和。泉。國。大。多。の。孫。下。袋。の。行。孫。津。の。圓。夫。曰
造。乃。法。孫。孫。之。尉。市。里。幡。磨。圓。伊。奈。見。凡。く。ん。じ。う。



又々集し九とてとめりて法坐の傍に師方集の上
 六万八千人劔の心は藤よ二万八千の草囊となす
 東西南北一同は次なるゆへにとて大北とていふ
 とくは海もくはに計し火燭劔よりえ付て
 炎火熱湯のごとくはたむき劔ハカをいづくも
 と軍士を楯とてお射しごころは極みの比より
 かでいと汲もこびて燭火うらうらと射つたふは比
 ごとくゆよけりつら徒者ハもてあつたことつら
 流るるやとて板よ書て燃岩のふ川のをわた
 ちよきり

わづれい劔の心とじうくわく

今がぐりしの月もあつた

いふの劔とてわづれけりし

カめつれれとてきくもや

焼のりるけつり人よたてて

すべの心はたしえり

或はこれの奇とてはくくともて極はいふ劔と目利

わづれい劔の心はたしえり

劔の心はたしえり

やけのりる劔の八守計は能眼指はぬらけり

ふれいもともい人のこゝろは

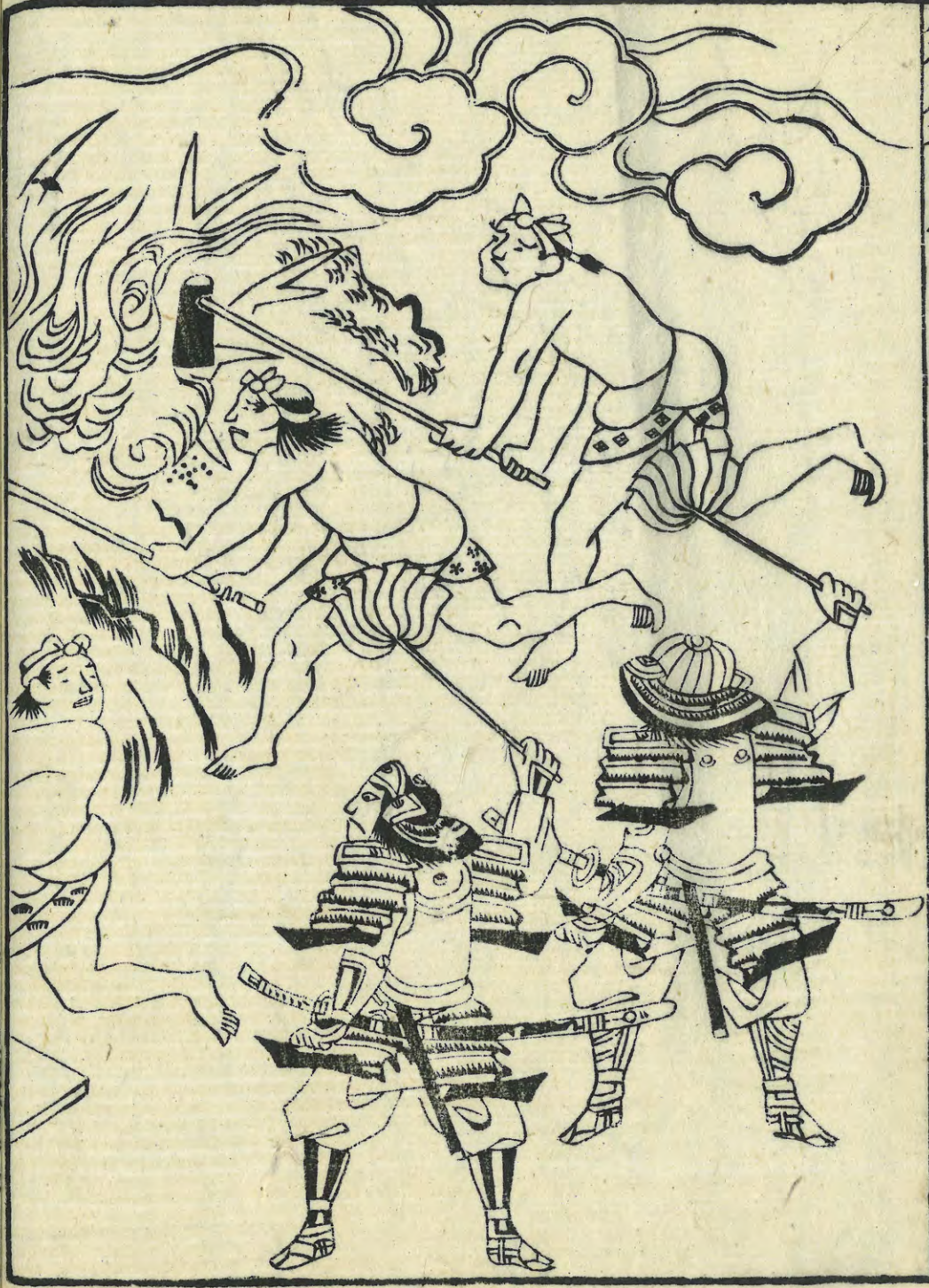
かく拾あげ物とて入る人のぬらけり

卒友をかしとて、はまき物とて、あつて、入るも、うら
うらよん、うれしき、梳き、秘蔵、かりひ、九、中
と、り、少、事、静、つ、て、ね、人、よ、せ、多、れ、ハ、あ、け、色
の、う、く、目、に、あ、ぬ、う、く、ひ、を、所、ね、し、折、角、れ、く
ま、つ、る、う、ひ、も、が、く、捨、け、る、や、た、わ、必、人、乃、ま、事、あ、り
う、く、も、か、れ、物、成、家、く、ん、計、い、そ、う、に、か、い、一、度、い、ま
ま、成、る、の、う、く、ら、も、せ、あ、り、と、ど、く、こ、う、ひ、も、れ、し、と、れ、く
う、け、り、く、と、ど、く、と、い、今、ぞ、し、ら、ふ、時、人、よ、ま、し、れ、を、何
れ、用、ひ、て、ま、ぬ、り、の、ぞ、や、し、う、れ、く、と、ん、く、か、れ、事、と、い、
文、明、の、は、都、二、条、池、の、小、浜、よ、か、ぬ、目、く、く、わ、く、我、の、自
慚、く、かり、あ、り、と、す、け、る、男、を、或、者、二、二、人、よ、い、を、か、り

男、と、わ、く、な、れ、後、合、社、合、く、新、服、格、の、中、と、う、つ、を
く、昔、の、う、の、ち、ご、や、同、格、よ、お、こ、ま、せ、け、る、程、よ、う、ら
う、く、所、不、事、大、外、ゆ、く、え、え、を、り、ぶ、家、の、者、と、彼、同
利、男、の、ま、は、は、う、り、く、い、も、せ、け、る、ハ、我、代、い、づ、り、の、
う、り、服、格、を、際、美、ま、く、い、づ、り、は、く、入、こ、ま、れ、た、當、分
手、前、如、難、を、れ、バ、あ、り、ハ、男、れ、格、合、を、り、あ、る、ハ、格、を
く、り、な、り、か、り、ふ、か、り、あ、る、色、の、い、ま、い、ら、う、く
あ、り、く、く、い、も、せ、け、る、は、こ、れ、も、格、の、あ、り、あ、り、お
く、く、い、余、前、ま、で、も、あ、り、ん、く、た、お、あ、り、ハ、ま、し、が
く、う、ん、く、い、ふ、格、は、ま、く、事、格、く、く、不、銘、し、く、あ
や、後、中、こ、小、字、二、あり、く、う、その、字、は、く、く、く、あ、り、

ときくゆくりしいかたしむりやこひ黄金
 十枚とふ付てうごり代に家へゆつりおこしはな
 うとくもかきうび是とみおはうらふ心しおし縁
 こへ愛よせようしく十枚かぐやわされぶおまふい
 うごけかぐうび是縁よ、親へ代めてわぐお若お愛
 わりつきたれうぶうい笑し福よおまうごう
 といや、おまうごうらうてうさふのしきこわ二そ入
 てわしよとまこふとばとけくしておてゆりた
 くわくくハ、おそいおこけけとあどぶ黄金三
 百枚ありゆふハ一朱うけてと愛まごこおとく独云
 といく二日話と一日一夜とこあゆりてと出れば
 涙よかんせをれおうううこおせりめこし。ゆんおか
 らハおふと愛勇かりといくしてけい色腫しぬけそ
 きなち氣痛しありとありかゆりこく大換へて
 こいこ家りのとあうく酒らんんかき男とこ
 家りのがもあうく一せんとこおあうくおうられ
 るうたれふとハ、おまふとやうごおあお後たれ
 ぶくやこもとれハ、おは酒りのくれあゆりてもら
 ぬたこふれお成あしておともししうあぬお成
 ほうくまわりふおおよかんせく徳念と入求ぬ。今
 の若のものとせどしり賢されは流いえんるあ
 叔敵のこハたれとくおまげおでいさハくけされごと

涙よかんせをれおうううこおせりめこし。ゆんおか
 らハおふと愛勇かりといくしてけい色腫しぬけそ
 きなち氣痛しありとありかゆりこく大換へて
 こいこ家りのとあうく酒らんんかき男とこ
 家りのがもあうく一せんとこおあうくおうられ
 るうたれふとハ、おまふとやうごおあお後たれ
 ぶくやこもとれハ、おは酒りのくれあゆりてもら
 ぬたこふれお成あしておともししうあぬお成
 ほうくまわりふおおよかんせく徳念と入求ぬ。今
 の若のものとせどしり賢されは流いえんるあ
 叔敵のこハたれとくおまげおでいさハくけされごと



うろくたつし金銀の鑿くわとる舎人しやにんあまう守護しよごする
馬うま乃のろふ。重おもき何なにと負おふ事こととリく色いろあそは須す弥み
とれらる事こと十六方由旬じゆじゆんれ妙まうなる方かたぞれは三界さんがいあり
欲た界がい。又また界がい。多おほく色いろ界がいなり帝釋ていじやく天てんの居まゐりて八喜はつし見けん
穢たひし。東とう南なんより生なま樹じゆあり。西せいより生なま法ほふ堂だうあり。日月にげつ
八は方かた由旬じゆじゆんなり。四方しやうほう由旬じゆじゆんよりあり日輪にりんの廣ひろさ八百
里有りゆう月宮げつぐう敷しきり下界げがいと照てうくあり須す弥み跡あとより四列しりやくあり
東とう弗ふ婆は提てい人にん事こと。又また百衆ひやくしゆ南瞻なんせん那な列りやく人にん事こと。二百衆にひやくしゆ北ほく俱く盧る
とて老らう少せう不定ふていく西瞿さいく那な尼に人にん事こと。二百八十衆にひやくはちじゆ小俱せうく盧る
州しゆ人にん事こと。二千衆にせんしゆなり。三十三天さんじさんてんの頂上ていじやうじやうハ非ひ相しやう非ひ相しやう相しやう相しやう相しやう相しやう
天てんと云いふ。命めいハ八は方かた大だい劫けつ生じやう色しき刑けい色しきなくん精しやう玉ぎよく不ふく
是こゝを命めいハ須す弥みのあり。愛あいとくも縁えんのともふわはは佛ぶつ
乃のまうし極ごく樂らく世せ界がいこそ命めい無む量りやうなり。安あん樂らく國こく
れわん限げんりハ須す弥み國こくのいのらして無む量りやうあり。か
しこまはよむしれかぐらふまごういふひりとして
む童どう姿さめくあうしこあげうのして諸しよ頭とうより
よし命めいハ不定ふていなり。九くの何なにと成なりしづりゆくせ
先まくみとせ三さんとせ下げなり。うし無む量りやう城じやうよりか
く百ひやく子しハ宮みやう宮みやう住ぢゆう生じやう万まん億いふの獄ごく鬼きはあかき。須す弥みは
れ廣ひろきとしてわりのしてむしすの榮えい花げとて心こゝろか
らばかどむれわのあまうはよははるかた太子たいしが
まうし那な。九く無む量りやう城じやうめく免めんを角かくしあへんして

是こゝを命めいハ須す弥みのあり。愛あいとくも縁えんのともふわはは佛ぶつ
乃のまうし極ごく樂らく世せ界がいこそ命めい無む量りやうなり。安あん樂らく國こく
れわん限げんりハ須す弥み國こくのいのらして無む量りやうあり。か
しこまはよむしれかぐらふまごういふひりとして
む童どう姿さめくあうしこあげうのして諸しよ頭とうより
よし命めいハ不定ふていなり。九くの何なにと成なりしづりゆくせ
先まくみとせ三さんとせ下げなり。うし無む量りやう城じやうよりか
く百ひやく子しハ宮みやう宮みやう住ぢゆう生じやう万まん億いふの獄ごく鬼きはあかき。須す弥みは
れ廣ひろきとしてわりのしてむしすの榮えい花げとて心こゝろか
らばかどむれわのあまうはよははるかた太子たいしが
まうし那な。九く無む量りやう城じやうめく免めんを角かくしあへんして

君に生れゆく何もの中よ又新よそれ何し云
 へ又至者満の可なり。眼耳鼻舌才意入六根之
 六塵し中へ色聲香味觸法なり。又常しく一仁義
 禮智信なり。世よ世のり王法の意。國去れ意。父母
 孝。流生の意。是方なり。世のりつこ小物あつた
 中ふし父母の孝しくして承る。釋尊既よ母摩那
 夫人の母孝をいれし。切利天よあがり阿んれ。法
 とそにのふも母摩那夫人の母孝徳深こそわらじ
 母喜提の母のめなり。唐の漢文帝。王あがりて
 よごり母れ侍おとす。備湯榮のあつてら
 とあひ事。母よそ人をもりあふ。善養永ハ一男とら



て親の孝音として揚香と我才と虎よあて
 又として陸績の六歳なりて親とあはれ餅子と
 合せし親よ何ぞも唐の高祖群臣と云ふも
 若備菊とたまり各一れと合は陳叔建し云は一人
 是と食せば懐中に帝を収め同なるふ付女よ
 送らんがめとけりけり子路と孔子の門才なり
 親のくめ糸とくしく貞節とありこれ皆又母恩
 とわがせんめかり太子かましきくわわ
 母養育いくらくわわと養世のふれよ付
 よ付あし思徳忘れさあか太子世界よとひ
 のいづくそとさうさむのひあつひがふまでの

此親あさうべ親よ唯今大王れ始らまう
 親生く世々わとれさあかしく個とさぐ
 多ハ徳男女潤うれくれの唐もまのま
 あなれ居る心お親あけさる親のふと
 せやふがごとく十方より思ひつり
 ていづらかかごとくなり候也早突ら
 れ世ゆこの所よりけり弟れ金処
 くれよあのがごとくさあまねい
 ましく目貴本はけりも故し
 さあわゆるおの心海さあわ
 ろるふましく火燭ハえり
 火燭ハえり

びなをうらむるつらき事にしては遊れた引おこるものなむ
 わきへれおし落行行よ大王の心えあくさく終る。
 太子のあさす心が姫君の息をといふおし勅定はま
 ぞしやけげまのしらあくよ太子の心とまじり
 仕仕しにりし事しして。らまじりあ事なれどは
 が太子ゆく酒を居るハ姫君御息をへし心つを付
 せまの心あまひひまわ

重代とむひけりたの心入得し

のれらむしおあさく終る也

らよは宣ひされど大王はなうこのあづきの心
 しこあまぶくあさしなくひらしなくあざり落

りあひやしく弘誓院漆原通寺と云古形よ
 ま入門しとあさかそとて幾くせまの
 んの心おもひやりて色さうと大玉のびく
 やおりしとらんあふれ始けりハ大王まとわ
 時の男小立命れりのごさげし年暮おひ入
 と心官獄卒た教多跡先よんてけらぶやそみ
 ざらり色まはるやんらうごらうがせれらハ
 くの落約つてんし勅定あられハ依の獄卒ハ申
 よ能及及るものありてハ赤よあさくしけら
 とまうしハ心落約とまうしとらうしりてどの申
 立ゆり一同よ中命とあさしハ三子世界よまらかたれ

才兒大王の口落^{くち}ぬりもせ^せ兒^こ矢^や一^{いっ}筋^{しん}村^{むら}や^やの^のこ^こか
 く^くれ^れ先^まみ^みし^しめ^めげ^げ落^おち^ちし^し心^こを^をど^どり^りと^とば^ば口^{くち}惜^じこ
 ま^まし^しと^とり^りて^て三^{さん}万^{まん}余^よ鬼^{おに}乃^の志^した^た大^{だい}王^{おう}の^の口^{くち}命^{いのち}全^{ぜん}く^くま^まう
 飯^いふ^ふ物^{もの}め^めく^く物^{もの}か^かさ^さ心^こを^を食^くう^う。ま^まも^もま^まか^かし^しな^なく^くせ
 物^{もの}も^も。同^{どう}乃^のの^の口^{くち}逆^{さか}よ^よか^かり^りん^んし^し心^こひ^ひま^まり^りし^し心^こも^もの
 ぞ^ぞし^し十^{じゅう}方^{ぽう}も^もり^りえ^えぞ^ぞれ^れ入^い雲^{くも}履^ふの^のぶ^ぶと^とく^くカ^か心^こ敵^{てき}の^のう^うと
 口^{くち}で^で入^い毒^{どく}の^の矢^やと^とれ^れら^らわ^わこ^こと^と物^{もの}り^り火^いあ^あは^はぬ^ぬく^く老^{らう}死^し
 我^{わが}の^の矢^やと^との^の振^ふは^はし^しと^とか^かこ^こ打^うち^ちて^てぞ^ぞん^んぢ^ぢう^うは^はこ^こお^おれ^れハ
 お^おり^りふ^ふぞ^ぞら^らう^うし^しら^らぐ^ぐ。我^{わが}と^とか^かぶ^ぶと^とう^うら^らく^くぞ^ぞ死^し。或^{ある}は^は腹^{はら}
 口^{くち}切^きり^り突^つ突^つの^の口^{くち}へ^へま^まび^び入^いく^く一^{いっ}鬼^{おに}色^{いろ}の^のこ^こら^らび^び死^しし^し心^こ
 う^うく^く上^うを^をれ^れが^が。大^{だい}王^{おう}は^は死^しに^にあ^ある^るぞ^ぞと^とか^かが^がう^うせ^せあ^あふ^ふ八^{はち}之^し終^つ